

提携活動について

■ 参天製薬株式会社とライセンス契約を締結

当社が創製し、緑内障・高眼圧症を対象に開発していたFP/EP3デュアル作動薬ONO-9054について、全世界において眼科用眼局所製剤として独占的に製造・開発・販売する権利を参天製薬株式会社に導出するライセンス契約を2016年3月に締結しました。

ONO-9054は、新規メカニズムのプロスタグランジン系治療薬で、強い眼圧下降作用が期待される点眼剤です。今後、参天製薬株式会社が全世界での開発を進めていきます。

■ IDACセラノスティクス株式会社とのライセンス交渉に関する契約を締結

2016年5月に、IDACセラノスティクス株式会社が開発中のヒト化抗CD4抗体「IT1208」について、当社が優先的に評価し、ライセンス交渉するオプション契約を締結しました。オプション契約に基づき、IDAC社は、固形がんを対象にIT1208の第I相臨床試験を国内にて実施します。すでに前臨床試験において、マウス担がんモデルで優れた抗腫瘍効果を示すことが確認されています。

■ 当社におけるライセンス活動について ————— 執行役員 事業戦略本部長 滝野 十一

製薬業界においては、新薬開発の成功確率がますます低下する中、自社創業のみの研究開発だけでなく、国内外の製薬企業やバイオベンチャー企業から新製品候補を導入（ライセンスイン）してくる活動は、重要かつ必須となってきています。当社も、2002年から12年間自社製品を上市できないという苦しい時期に8つの製品を導入し、上市してきました。現在、さらに8化合物が申請・開発段階にあり、早期の発売を目指しています。



今後、中長期的な持続的成長を図っていくために、より一層開発パイプラインの拡充を目指し、導入活動に邁進していきます。

一方で自社化合物の導出（ライセンスアウト）については、開発化合物ごとに適切なタイミングで、開発/販売能力に優れたパートナー企業に導出していくことを基本に考えています。化合物の特性や競合状況などを考慮しつつ、導出時期に関しては柔軟に対応していきます。なお、導出対象地域については、将来の自社展開の可能性も考慮しながら、適切に判断していきます。